■　浄める　■

『時を守り、場を浄め、礼を正す』は、教育哲学者である森信三の言葉だ。「現実界における再建の三大原理」と呼ばれ、多くの学校や職場で使われている。本校の生徒指導でもことあるごとに生徒に言い聞かせている。

先週の木曜日、快晴の空の下、全校生徒による舎外清掃が行われた。これは野々市市の行う『子どもと大人のまちぐるみ美化清掃』を兼ねたボランティア清掃である。５クラスは校地内の除草としたが、地域への感謝の心を込めて、残りの１７クラスが近隣の公園や道路で清掃活動に汗を流した。

学校向かいの公園に出てみると、母親に連れられた小さな子どもがあちこちで遊んでいる。生徒に尋ねると、「ゴミはほとんどありません」との返事。確かにきれいだ。使用者のマナーが守られているのか、それとも管理者の手が入っているのか。緑の間から陽光がきらめく。ぐるりと回ってみたが、気持ちのいい公園である。

２カ月前のことを想い出す。４月２２日、仙台市の大通りの沿道を 108000 人が埋め尽くした。平昌五輪で２大会連続の金メダルを獲得したフィギュアスケートの羽生結弦の凱旋パレードでのことだ。イベント終了後に 1100mのコースの両サイドから集められたゴミはわずか６袋分だったという。ほとんどの人がペットボトルなど自分で出したゴミを持ち帰ったのだろう。感動するほどのマナーの良さだった。

「浄める」とはどういうことをいうのだろう。乱れているものや汚れているものを美しくしようとする気持ちに加え、そこに、汚さないできれいなまま大切に使わせていただくという感謝を含めた心の働きをいうのではないか。

人間の持つ「浄め」の心に働きかける取り組みもある。千葉市でゴミの不法投棄が相次ぐ地域があった。警察が近隣の住民や中学生に呼びかけて、みんなで市道沿いの一角をペチュニアやマリーゴールドで飾った。ゴミを捨てさせない環境作りが大切であるという発想である。本校前の舗道にも等間隔でマリーゴールドのプランターが並べられている。これも花の美しさだけでなく、汚さない街作りに一役買っているのだろう。

学校へ戻ってみると、たくさんのゴミを持った生徒たちが集まり始めている。公園にはそれほどゴミはなかったが、一般道路や側溝にはまだまだ捨てられたままになっている物が多いようだ。汗してゴミを拾った者は、ゴミを捨てたりはしまい。これからも、校舎も街も大切に使わせていただこう。ボランティア清掃は街だけでなく、それぞれの生徒の心も「浄め」ていると感じた。

参考：読売新聞 編集手帳 2018.4.26、2016.7.5